

日本学術会議だより No.12 より抜粋

第14期特別委員会の活動始まる

平成元年2月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議では、昨年10月の総会において設置された第14期の各特別委員会が活動を始めましたが、今回の日本学術会議だよりでは、これらの特別委員会に加えて、本会議が行っている国際的活動等についてお知らせいたします。

第14期の特別委員会

昨年10月の第106回総会で決定された、日本学術会議の第14期活動計画では、活動の重点目標として、①人類の福祉・平和及び自然との係わりを重視する学術の振興、②基礎研究の推進と諸科学の整合的発展、③国際関係の重視と国際的寄与の拡大、の3本の柱を掲げるとともに、これらの重点目標を踏まえて、多方面の科学者によって構成される日本学術会議にふさわしく各分野にわたって広く対応し、かつ、第14期中に適切な形で報告・提言に取りまとめるべき具体的課題として15の課題を選定している。

この度設置された7つの特別委員会は、上記の具体的課題のうち、従来から常設されている6つの常置委員会（別掲参照）で取り扱うものを除き、かつ、緊急に調査審議を行う必要がある7課題に対応するものである。

各特別委員会の名称及び任務等は次のとおりである。

- ◆平和及び国際摩擦に関する特別委員会
委員長：川田 侃（第2部会員）
（任務）国際的視野と我が国が置かれている地域的状況や特性を踏まえて、国際摩擦（文化的・政治経済的・技術的等）の解決と平和に関する総合的な研究の推進の在り方やその体制等について検討する。
- ◆医療技術と社会に関する特別委員会
委員長：水越 治（第7部会員）
（任務）医療技術の急速な進展は、自然科学の分野だけでなく、人文・社会科学の領域にも種々の問題を提起している。様々な医療技術に係わる社会的側面を総合的に検討する。
- ◆生命科学と生命工学特別委員会
委員長：井上英二（第7部会員）
（任務）生命科学と生命工学の推進方策を検討するとともに、これらの急速な進歩を踏まえ、それらと人間・社会及び自然との係わりについても総合的に検討する。
- ◆農業・農村問題特別委員会
委員長：水間 豊（第6部会員）
（任務）農業・農村のもつ食糧生産や環境保全等の多面的機能について、近年の国際的・国内的状況を踏まえつつ、文化・経済・自然・都市との係わりで

幅広く検討する。

- ◆資源・エネルギー問題特別委員会
委員長：上之園親佐（第5部会員）
（任務）資源・エネルギーの開発と利用の問題を検討する。それに伴う自然及び人間社会への好ましくない影響を防止するという観点からも問題を検討する。
- ◆人間活動と地球環境に関する特別委員会
委員長：吉野正敏（第4部会員）
（任務）近年、経済社会活動の拡大等を背景に、人間活動が環境に及ぼす影響が地球的規模で広がっており、深刻化する可能性を強めている。このような状況を踏まえ、人間活動と地球環境の問題等を検討する。
- ◆高度技術化社会特別委員会
委員長：佐藤 豪（第5部会員）
（任務）エレクトロニクス、メカニクス等の技術の発展・普及が社会に及ぼす影響、社会の情報化・技術化と人間との調和等について検討する。また、巨大な技術システムとヒューマン・ファクターとの関連についても安全確保と人間性確保の立場から検討する。

これらの各特別委員会は、発足以来現在までに各々2～3回の会議を開催するとともに、委員会によっては、シンポジウムやヒヤリングを実施して、それぞれの任務に沿った具体的な審議課題や今後の審議計画等について熱心に審議を進めている。今後の審議の成果が大いに期待されることとあり、今後、審議成果が発表され次第、紹介していく予定である。

なお、以上の7つの特別委員会のほかに、先般の総会の申合せにより、本年の4月総会において、人間の科学特別委員会（仮称）を追加設置する予定である。この「人間の科学」については、その具体的検討方法が複雑であるので、あらかじめ若干の整理を行った後に、特別委員会を発足させることにしたものであり、現在、検討会を設置して問題点の整理を行っているところである。

常置委員会

日本学術会議は、別掲の特別委員会のほかに、6つの常置委員会を設置している。各常置委員会は、本会議の目的及び職務・権限に即して、恒常的に調査・審議を進めていく必要がある事項について、個々の委員会の職務を明確にした上で設置されている。各常置委員会の名称と任務等は、次のとおりである。

- 第1 常置委員会（委員長：大石泰彦（副会長・第3部会員））
（任務）研究連絡委員会活動活性化の方策及び日本学術会議の組織等に関するものを審議する。
- 第2 常置委員会（委員長：星野安三郎（第2部会員））
（任務）学問・思想の自由並びに科学者の倫理と社会的責任及び地位の向上に関するものを審議する。
- 第3 常置委員会（委員長：渡邊富士夫（第7部会員））
（任務）学術の動向の現状分析及び学術の発展の長期的動向に関するものを審議する。
- 第4 常置委員会（委員長：樋口敬二（第4部会員））
（任務）創造的研究醸成のための学術体制に関すること及び学術関係諸機関との連携に関するものを審議する。
- 第5 常置委員会（委員長：市川惇信（第5部会員））
（任務）学術情報・資料に関するものを審議する。
- 第6 常置委員会（委員長：染谷恭次郎（第3部会員））
（任務）国際学術交流・協力に関するものを審議する。

.....
学会だより
.....

会費納入のお願い

4月より会計年度が改まりますので新年度会費の納入をお願いします。

会費は通常会員 5,000 円、特別会員 12,000 円です。特別会員の中、学生会費は 10,000 円ですが大学院生、研究生等、定収入のない学生であることを申告していただきます。申告には、学会事務所にある所定用紙か、郵便振替の通信欄をご利用下さい。いづれも、申告年月日および学生の身分を明示した本人の署名・捺印が必要です。

会費は、今月号に挿入の振替用紙(手数料本会負担)による払込か現金書留あるいは銀行振込でお納め下さい。会の円滑な運営のため、できるだけ早くご納入下さるようお願いします。

郵便振替口座：東京 6-13595 日本天文学会

銀行口座：三菱銀行三鷹支店

普通預金口座 4434400 日本天文学会

天体観測専門誌

天文ガイド

5月号 定価450円+90 4月5日発売

特集 今年、太陽活動が最高潮

11年ぶりに極大となる太陽活動を特集します。昼間の天文学ではどんな観測ができるのでしょうか。

マゼランの打ち上げ

金星へ行く探査機「マゼラン」の打ち上げが迫っています。どんな観測が行なわれるかを紹介します。

ニューフェイステストレポート

ピクセン製新型赤道儀「アトラス」をテストしてみます。久し振りの新製品に期待できそうです。

- 5月のスターウォッチング ● 5月の観測資料
- 観測ガイド ● 情報ボックス…など情報満載

天文／グラフィティ
銀河

長時間露出により、眼視では想像もできない、美しく神秘的な姿の星雲・星団を写真として鮮明に撮り続ける著者の数ある作品の中から、銀河だけを集めた小事典です。31cm反射望遠鏡による写真ですから、適当な視野の広がりがあり、広大な宇宙に浮かぶ銀河の姿がリアルに見られ、周辺の星の配置もわかります。

古田俊正 著 定価★3000円

天文／グラフィティ
銀河系の星雲・星団

31cm反射鏡で著者が写し続けた星雲・星団の、写真で見る小事典です。散開星団、球状星団、惑星状星雲、散光星雲、暗黒星雲を収録して、小事典として役立つようになっていることが大きな特徴で、もちろん眺めるだけでも楽しい写真集となっています。星雲・星団の写真撮影の際のガイドとしても最適です。

古田俊正 著 定価★2200円

誠文堂新光社

東京都千代田区神田錦町1-5
電 03(292)1221 振替東京7-128